

プロジェクトの概要

1. 目的

元気な高齢者だけでなく、身体が弱くなった高齢者も積極的に街に出て、生き生きと交流を楽しむことのできる生活圏を「歩行圏コミュニティ」と定義し、その実現に必要な条件を抽出する。

■到達目標

(1)コンパクトシティを標榜する富山県富山市のまちなかにおいて、大学、行政、地区のステークホルダーが協働で「歩行補助車(富山まちなかカート)」を活用した歩行支援活動を試み、

(2)まず、高齢者の生活を助ける「歩行補助車」の整備が、まちなかにおける歩行圏コミュニティ実現の基盤的条件であることを示す。

(3)次に、当該活動が高齢者のライフスタイルの変容ならびにコミュニティの活性化に繋がる可能性を検証し、

(4)高齢社会における歩行圏コミュニティの都市文化としての普及発展を唱導する。

1

2. アクションプラン

段階	内容
M Mobilize 参加	<p>■地域で健康を心配する人々や関心を持つ組織を動かし、連携する。</p> <p>→歩行圏コミュニティ研究会【ホコケン】の結成 ・富山大学(医学・看護/芸術文化学部/人間発達科学部/工学/地域連携機構の教職員、学生) ・星井町地区(自治振興会長/単位長寿会長) ・富山市(副市長/政策監/保健福祉部/環境部/都市整備部)</p>
A Assess 現状把握	<p>■地域の課題を把握し、改善するための社会資源や能力を評価する。</p> <p>→星井町地区長寿会会員を対象とした「健康と生活に関する調査」の実施と分析 →学習会「まち歩きコースの設定とその検証会」</p>
P Plan 企画・計画	<p>■プロジェクトが「目指す姿」を共有し、各自がやれることを表現する。</p> <p>→face to faceによる会議</p>
I Implement 実行	<p>■メンバーの意見を取り入れた歩行支援を実行し、成果を生み出す。</p> <p>→右図</p>
T Track 追跡	<p>■進歩を追跡する。</p>

【ホコケンがめざす姿】 現在、歩行補助車は病院や福祉施設の中など、限られた場所で使われることが多く、屋外で見かけることはほとんどないが、歩行補助車が地域高齢者の生活を助け、そのコミュニティでは見慣れた風景となれば歩行補助車はコミュニティの文化となる。道具の助けを多少借りながら自分で歩いて住み慣れた地域で普通の生活をする。それが本プロジェクトの目指す高齢社会のデザインである。



2

成果と今後の課題

1. 成果(プロジェクト活動の振り返り)

ストラクチャー評価	プロセス評価	アウトカム評価
どのような場で「支援」を提供したか？	どのような「支援」がどのように提供されたか？	市民や地域社会に何が起きたのか？
<p>(1) チーム「ホコケン」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多彩なメンバーでチーム編成できた。 ・目的/目標の共通認識ができた。 (目標は、何がどうなればいいのかイメージできる内容「歩行補助車を見慣れた風景にする」であることが重要) ・コミュニケーションと専門性の尊重を大事にチーム運営できた。 ・目標達成に繋がる企画/実行を生み出すことができた。 <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">地域資源のネットワークの強化</p>	<p>(1) 歩行支援の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人の意識変化から社会環境の変化に繋がる支援内容であった。 ・参加者の満足度が高い支援を提供できた。 ・参加者相互の関係性を深めるような内容であった。「仲良くなった」 ・ホコケンメンバーのアイデアと工夫が盛り込まれた内容であった。 <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">課題解決の仕方の変化を生む</p>	<p>(1) 市民ひとり一人の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神的健康度の向上 (みんなが共感してくれる感覚、誰かの役に立てる感覚等) ・社会的健康度の向上 (外出/交流の増加等) <p>(2) 地域社会の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ホコケン」の浸透/関心の向上 (視察、取材の増加等) ・社会環境の整備 (歩行補助車ステーションの設置とそれを使う人の増加等)

2. 今後の課題

プロジェクト成果を持続するために・・・

- ①歩行補助車の製品化、②行政施策との連動、③商店街との連携

3

行政とホコケンの連携



富山市長寿福祉課
富山市環境政策課

岡地 聡
高田 興真

《富山市のまちづくりの基本方針》

鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、その沿線に居住、商業、業務、文化等の都市の諸機能を集積させることにより、**公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを実現**

《環境未来都市計画における目指すべき将来像》

1. 公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり

公共交通の活性化、中心市街地や公共交通沿線での都市機能の集積

2. 質の高い魅力的な市民生活づくり

歩いて暮らせるまち、文化度の高い暮らし、**高齢者の外出機会の創出**、ソーシャルキャピタルの醸成

3. 地域特性を十分に活かした産業振興

地場産業である薬業の最大限の活用、再生可能エネルギーの活用、企業誘致、新産業の創出



<概念図>

富山市が目指す「お団子と串」の都市構造

串：一定水準以上のサービスレベルの公共交通

お団子：串で結ばれた徒歩圏

富山大学歩行圏コミュニティ研究会のプロジェクトは、富山市が進める**コンパクトなまちづくり**の趣旨・目的と合致し、**環境未来都市計画**の1プロジェクトに位置づけている。

《歩行補助車の製作から普及展開に向けた「歩行圏コミュニティ研究会」》

大学や行政、企業、住民で構成した研究会にて、歩行補助車の製作や、歩行補助車を活用したイベントの開催など、市民への普及啓発に向けた検討・協議を進めている。

富山市としては、この取組を大学の実証研究で終わらせるのではなく、**市が進めるまちづくりとも連携させていく**ため、副市長をはじめ、福祉保健部局のほか、都市整備部局や環境部局の職員もメンバーとして積極的に参加。



大学・行政・企業・住民による歩行圏コミュニティ研究会

行政とホコケンの連携 <行政が進める取組例>

《おでかけ定期券事業》

従来から富山市が行っている高齢者福祉とまちづくりの取組例として、交通事業者と連携し、65歳以上の高齢者を対象に市内各地から中心市街地へ出かける際に公共交通利用料金を1回100円とする割引制度を実施。高齢者の約24%が所有し、1日平均2,523人が利用。高齢者の外出機会の創出、公共交通の利用促進、中心市街地の活性化が期待される。



＜例＞路線バスの利用
〔猪谷〕→〔富山駅前〕片道
通常運賃：1,130円
おでかけ定期：100円

＜おでかけ定期券の申込み＞

65歳以上の方、利用者負担金1,000円

＜おでかけ定期券の利用＞

①利用時間帯：午前9時～午後5時

②利用区間

〔路線バス〕

富山市内各地 ↔ 中心市街地等の区間
中心市街地等 ↔ 中心市街地等の区間
富山市内各地 ↔ 富山市民病院の区間

〔地鉄電車〕

富山市内各駅 ↔ 電鉄富山駅
南富山駅

〔路面電車〕

市内電車(環状線含む)、富山ライトレール

行政とホコケンの連携 <取組・実証(公共施設)>

《歩行補助車「富山まちなかカート」の公共施設における利用》

高齢者等が安全・安心・快適に歩いて暮らせるまちづくりに向け、富山大学が研究開発を進める歩行補助車「まちなかカート」を公共施設等に設置し、気軽に利用できる歩行支援ツールとして普及展開を図る。

【設置箇所】

- 設置済：富山市役所庁舎(7台：H26.1.20～)
- 設置検討：市内の美術館・博物館・資料館など

＜富山市役所1階＞



★ 設置ポイント

設置状況



利用者の声

「安定感があり使い勝手がよい」

国内外からの視察の増加や本取組を含む環境未来都市計画が表彰されるなど、取組の先進性・モデル性が大きく評価されている。また、本取組への高齢者の参加により、外出機会や生きがいが増え、中心市街地の活性化や社会保障費の軽減も期待している。



環境副大臣による視察



OECD(フランス)による視察



第1回プラチナ大賞 富山市 優秀賞受賞



まちなかでの高齢者の利用